

GSM Newsletter

vol.9 / 2024.11

| GSM Topics | 工学研究科兼担教員の声

女性研究者の声

エグゼクティブ教育プログラム

新講座のご紹介 / GSM コラム

修了生の声

GSM ニュース / 同窓会ニュース



京都大学経営管理大学院
Graduate School of Management, Kyoto University

経営管理大学院には、発足当初から工学分野の専門知識を活かした5名の兼担教員が積極的に参画しています。吉田キャンパスでの経営管理大学院における教育・研究活動にとどまらず、桂キャンパスの大学院工学研究科でも指導や研究に情熱を注いでいます。工学と経営の双方に深い理解を持ちながら、それぞれの専門分野を融合し、学生に新たな視点を提供することで、産学連携やイノベーションの推進にも貢献しています。

今回の特集では、工学研究科兼担教員2名の声を取り上げています。各教員の専門分野や研究内容に加えて、兼担という立場で直面している課題ややりがい、異なる分野が交差することで生まれる新たな価値や可能性についても触れています。工学研究科兼担教員の人柄や取り組みについて、この機会にぜひ知っていただければと思います。



桂キャンパス遠景



市川 温 教授 水文学、水工計画学

GSM 着任以前のバックグラウンド

家の周りの田んぼや用水路などで遊ぶのが常だったためか、子供のころから水に関心があり、その方面を学ぶことができるということで大学進学時に土木工学を選びました。本学工学研究科修士課程土木工学専攻を修了した後、本学のいくつかの部局と山梨大学での勤務を経て、経営管理研究部所属（工学研究科兼担）となりました。



鴨川での採水の様子

専門分野・研究内容・今後の取組み

水文学（すいもんがく）ならびに水工計画学を専門としています。天文学が天（宇宙）の入り組んだ仕組み（文：あや）を解明しようとする学問であるように、水文学は水（とくに水循環）の仕組みを解明しようとする学問です。地球上の水循環は太陽エネルギーと重力が駆動力の自然現象ですが、今では人間活動が水循環に与えている影響を無視することはできませんし、人間社会もまた、水循環の強い影響を受けています。とくに大雨に伴う出水・氾濫は、生命・財産に大きな被害をもたらします。そのような水災外力に対して計画的に備えるための学問が水工計画学です。ダムや遊水地などの水工施設の整備はもちろんのこと、土地利用や住まい方を工夫することでも水災害は軽減することができます。水循環の理解を基礎として、水とうまくつき合うための河川と流域のマネジメントについて考えていきたいと思っています。写真は、出水時の鴨川でバケツを使って採水したときのもの（左）と、飲み会のときのもの（右）です。水だけでなく、ビールなどにも関心があります。





大庭 哲治 教授

都市・地域計画

専門分野・研究内容

私は、地図を手に国内外の街を歩いたり、車窓から街並みを眺めたりすることが大好きです。その過程で出会った新たな発見や人々との交流が、都市計画学や土木計画学の道を志すきっかけとなりました。現在は、次世代に向けたより良い都市づくりやまちづくりに加え、国土計画の視点から持続可能で強靱な都市の形成や地域の活性化について研究しています。現代社会が直面している人口減少や高齢化といった課題に対応するためには、生活機能を維持しながら、効率的な土地利用と歩行者に優しいウォークアブルな魅力ある都市、すなわち「コンパクトシティ」の実現が重要だと考えています。このアプローチは、公共交通の充実やインフラの最適化、都市全体の強靱化を目指し、世代を超えて住みやすいまちづくりを推進するものです。

工学研究科兼担教員・実務家教員として

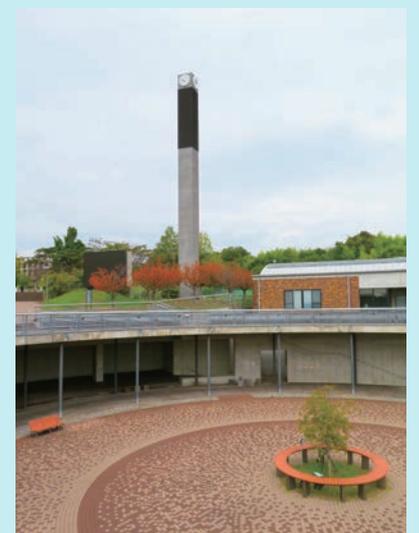
工学研究科と経営管理大学院の両方で教えることは大変ではありませんが、兼担教員としてのやりがいは、異なる分野を橋渡しし、物事に対して多角的な視点でアプローチできることにあります。工学では、技術やデータに基づく論理的な解決策を重視し、経営学では、人間関係、組織運営、意思決定のプロセスを理解する必要があるため、これらを統合することで、学生に理論と実践の両面で深い学びを提供できます。また、多様なバックグラウンドを持つ学生や企業、自治体との交流を通じて人脈が広がり、実社会での連携の機会が増えることも大きな魅力です。加えて、私は、民間シンクタンクでの実務経験があるため、実務家教員として、現場での経験を活かし、理論だけではなく実践的な知識を伝えることができる点にも大きなやりがいを感じています。



桂図書館にて



親子サッカーに参加したときの様子



桂キャンパスの時計塔
(桂モニュメント)



Alexandra Elena Carst, Senior Lecturer

My background in research

My journey into academia began inadvertently when I found myself tutoring my younger sister at just six years old. While teaching came naturally, becoming a professor was not a goal I actively pursued. Instead, a mix of personal and professional experiences led me down this academic path.

My higher education journey began when I moved to Denmark, where I majored in International Business and Chinese at the University of Southern Denmark. My passion for Chinese culture and language deepened during my study period in Shanghai. Furthermore, meeting Japanese classmates there also ignited my interest in learning Japanese, which I began to study independently. After professionally exploring various industries—ranging from education and architecture to construction and FMCG, in roles such as marketing, sales, and project management—I embarked on a double-degree Ph.D. in Business and Management at Aalborg University (AAU), Denmark, and Innovation Management at Sino-Danish College (SDC), University of Chinese Academy of Sciences (UCAS), China. This step marked the beginning of my academic career, despite the challenges brought by the pandemic, which limited my data collection and research travel to China.

After completing my Ph.D., I continued as a Research Fellow at AAU, followed by a research stay at UCAS, a long-awaited experience.

Soon after, I embraced a new academic opportunity at Kyoto University, which broadened both my research interests and direction. Although academia was not my original pursuit, education has always been a guiding force, opening new doors, expanding my knowledge, and pushing me beyond my comfort zone.



My research interests

Sustainability has been a personal passion since childhood, evident through my involvement in volunteering activities like recycling and replanting forest patches. This interest naturally extended into my academic research, where I have focused on green technologies and sustainability-driven innovation.

During my Ph.D., I explored the wind energy context in Denmark and China, specifically investigated the dynamics of small and medium-sized enterprises in this innovation ecosystem. I find the interdependence of ecosystems particularly fascinating—how the actions of one actor or a shift in one element can ripple through and impact the entire ecosystem.

My current research centers around small businesses, green entrepreneurship, and the development of green tech. I am keen to explore how these firms innovate within sustainability-focused ecosystems in Japan, contributing to the broader shift towards a greener economy.

Work-life balance, message to students

Achieving work-life balance as an academic is challenging, but when you love your profession, reaching a state of flow while working feels incredibly fulfilling. Finding such a career is key to long-term happiness and professional satisfaction.

However, even with project management expertise, things do not always go as planned—my own Ph.D. journey was disrupted by the pandemic, and adaptability became crucial. Thus, I believe it is important to be prepared for the unexpected and learn to adjust smoothly.

Lastly, do not be afraid to take chances and pursue the opportunities life presents. No decision is permanent, and you can always change course if needed. I started my career in various industries, but now I am a scholar. I still stay connected to industry developments, but I personally find contributing to knowledge even more rewarding. So embrace opportunities! Regret for missed chances can last far longer than the fear of taking them.



Related links

Alexandra Elena Carst

<https://kdb.iimc.kyoto-u.ac.jp/profile/en.161737bafc3787ea.html>

<https://researchmap.jp/AlexandraECarst?lang=en>

Green Entrepreneurship Studies

<https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/en/collaborative-research/green-entrepreneur/>

2024 年度 10 月

第 2 期 開講



女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム

女性エグゼクティブリーダーの育成とジェンダーダイバーシティに関する研究

10 月 12 日（土）、京都大学経営管理大学院「女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム」第 2 期の開講式が、国際科学イノベーション棟 5 階シンポジウムホールにて執り行われました。

本プログラムは、日本企業における女性役員の割合を増やすことを目的とした企業向けの取組みであり、将来の女性リーダーに必要な知識とスキルを提供します。今年度で第 2 期を迎えました。

開講式の冒頭では、湊長博 総長と澤邊紀生 院長より、次世代を担うリーダーたちに向けて心温まる激励の言葉が贈られました。その後、京セラ株式会社執行役員である吉川英里氏が「ダイバーシティの取組み」について講演し、企業における多様性推進の重要性や実際の取組みが紹介されました。さらに、吉川氏と幸田 特別教授とのディスカッションも行われ、実践的な知見が深められました。続いて、アスリ チョルパン 教授と関口倫紀 教授から、プログラムの概要と目的について詳細な説明がありました。

後半では、受講生同士や会員企業の役員間での交流が行われ、企業間のネットワーキングが活発に行われました。会場には、受講生 31 名をはじめ、参加企業役員 10 名や大学関係者など、総勢約 50 名が出席し、意義深い交流の場となりました。



プログラム教員 集合写真

事務局からのメッセージ

昨年初年度は、運営側も 1 年生で満足いただける運営サポートができていたか不安でしたが、受講生が修了後も勉強会を定期的に行い繋がっておられる様子を聞くと、本プログラムの良さを実感します。2 年目も新たな企画を取り入れ、より充実したプログラムを目指します。



事務局のお二人

坂田さん(左)と尼川さん(右)

2024 年度 9 月

新規開講



国際資産評価士（事業価値評価）養成プログラム

国際的に認知される資格取得に必要な事業価値評価の手法と幅広い経営戦略の立案に役立つ実務を学ぶプログラム

【概要】

近年、IFRS（国際財務報告基準）の適用拡大や国内外での M&A の増加に伴い、合理的で客観的な事業価値を算定できる人材の需要が高まっています。わが国では投資アドバイスを目的とした証券分析に供する事業評価を履修する機会はあるものの、企業の情報開示や経営戦略の立案に役立つ事業価値評価を学ぶ機会が特定の研修プログラムに限られているのが現状です。

このため、事業価値評価に対するニーズの高まりとともに、多くの人々が実務遂行のノウハウを身につけ、その能力を証明する仕組みに対する社会的ニーズも増加しています。このような現状を踏まえ、本履修証明プログラムは、国際的に認知される資格取得に必要な事業価値評価の手法と実務を体系的かつ専門的に学ぶ機会を幅広く提供し、国際的に通用する人材を育成することを目指します。



講義でのディスカッションの様子

【プログラム内容】

本プログラムでは、財務や組織だけでなく、技術を含む幅広い経営ノウハウと洞察力を身につけるための、文理融合型のアプローチをベースとしたカリキュラムを提供します。本プログラムで使用する主な教材は、米国鑑定財団（The Appraisal Foundation）および国際評価基準審議会（IVSC: International Valuation Standards Council）が提唱する資格認定教育基準に基づき、米国鑑定士協会（ASA: American Society of Appraisers）が国際的に提供する事業価値評価（Business Valuation）の資格認定教育プログラムの教材を、ASA の日本に於ける代表機関である一般社団法人日本資産評価士協会（JaSIA: Japanese Society of Independent Appraisers）との提携により、日本語で提供するものです。初期段階では、米国の教材を使用するため米国の事例が中心となります。日本の事例を反映した内容も適宜追加していく予定です。本プログラムの受講者には、JaSIA が監修・実施する修了試験の受験機会が与えられます。この試験に合格した方は、ASA の規定に従い、ASA 国際資産評価士（事業価値評価）の資格取得を申請することができます。

プログラム統括責任者 大庭先生からのメッセージ

事業価値評価、M&A 支援、企業再生支援、企業経営分析等の専門職を目指す方、不動産鑑定士等として鑑定の業務に従事されている方、その他事業価値評価に関わるビジネスに関心のある方からのご応募をお待ちしています。

（今年度の募集は締め切りました）



大庭 哲治 教授

2024 年度に開設した産学共同講座と寄附講座をご紹介します

インフラ物性産学共同講座



設置期間

2024/4/1~2027/3/31



参加企業

出光興産株式会社

大成ロテック株式会社



共同研究機関

理化学研究所 放射光科学研究センター

本講座では、インフラ材料ごとに、新素材・新材料の開発からパフォーマンスの性能規定化に至るまでのイノベーションに関する実践的研究を行うとともに、インフラ横断的にイノベーションの成果を国際公共調達の分野で実装していくべく、産官学協働のビジネスモデルについて研究を行います。まずは、インフラ材料として舗装に着目しますが、将来的にはインフラ材料の実践的研究を横断的に展開し、「インフラ物性学」という新学問領域の創出とその社会実装に貢献していきます。

スタートアップM&A 寄附講座



設置期間

2024/4/1~2027/3/31

寄附者

株式会社ストライク

本寄附講座では、スタートアップ投資のイグジット、特にM&A について研究を行います。具体的には、プライマリー市場に加え、セカンダリー市場が発達している米国のスタートアップ投資について調査を行うとともに、日本の VC やコーポレートベンチャーキャピタル (CVC) による投資とイグジットに関して分析を行います。また、本講座は、スタートアップと大企業の共創を担う人材の育成を目的として、経営管理大学院に「スタートアップ M&A」の講義を提供し、学外においても M&A の実務家やスタートアップのマネジメントを対象とした教育にも貢献していきます。

研究成果を学術界や産業界に発信することで、本講座が日本のスタートアップ M&A に関する研究と教育の中核となることを目指します。

日本M&Aセンターホールディングス寄附講座



設置期間

2024/4/1~2029/3/31

寄附者

株式会社日本 M&A センターホールディングス

本寄附講座では、企業評価に関する研究と教育を行います。研究においては、① 中小未上場企業のバリュエーションに関するデータ分析・実証研究、② ESG パフォーマンス (ESGP) を織り込んだ企業価値評価モデルの開発を行います。ESGP を取り入れた企業評価モデルは、京都大学経営管理大学院・砂川研究室がこれまで取り組んできたテーマでもあります。共同研究を通じ、学術的かつ実装的な ESG 企業価値評価モデルを開発し、その普及に取り組む予定です。

教育においては、京都大学経営管理大学院や経済学部にて実務経験や研究成果を取り入れた講義や、社会人向けのセミナーを開催します。これらの活動を通じて、企業価値評価やM&A、中小・中堅企業の事業承継やスタートアップの EXIT 戦略等に関する知見を普及し、日本企業の企業価値の向上に貢献します。

プロジェクトマネジメント評価
(近畿地域づくりセンター) 寄附講座

設置期間

2024/9/1~2028/3/31

寄附者

近畿地域づくりセンター

地域・都市づくりや自然災害復旧・復興などに従事する行政関係者、民間事業者は、これら唯一性の強いプロジェクトの遂行に際し、数多くの関係者と調整しつつ、不測の事態の勃発や情勢の変化、不確かな情報下で限られた時間内に適切に対応すべく意思決定し、実行に移すことを常に迫られています。

本寄附講座では、関連学会の活動とも連携しつつ、以下に掲げる研究を進め、行政関係者や民間事業者などの職場でプロジェクトマネジメント能力の育成向上に向けた取り組みとしてマネジメント評価手法が普及されるように努めていきます。

- ・プロジェクトマネジメント評価スキームに関する研究
- ・ケースメソッドの教授法および講師育成に関する研究
- ・プロジェクトマネジメント効率化の効果測定に関する研究
- ・プロジェクトマネジメント評価手法の普及およびその維持発展方策に関する検討

寄附講座交流会を開催しました

経営管理大学院では、関連分野の企業のご寄附により多様な講座・講義を開講していますが、2024年2月28日に各々の成果発表と相互交流を目的とした「寄附講座交流会」を開催いたしました。

本大学院では新しい試みとなるイベントでしたが、当日は18の講座から担当教員が参加し、講座の概要や産官学連携の成果、今後の展望などについてのプレゼンテーションを行いました。また、各講座の発表後にも活発に質問やディスカッションが生まれ、他講座の取り組みについて高い関心を示すコメントも相次ぐなど、今後のさらなる研究の発展に向け充実したイベントとなりました。



プレゼンテーションの様子

参加講座（発表順）

- ・アジアビジネス・リーダー人材育成産学共同講座
- ・企業金融と資本市場（みずほ証券）寄附講座
- ・プライベート・エクイティ（ポラリス・キャピタル・グループ）寄附講座
- ・グローバル社会起業寄附講座
- ・国際メガ・インフラマネジメント政策（八千代エンジニアリング）講座
- ・京都クリエイティブ・アッサンブラージュ
- ・ブレインヘルスケア・ビジネスエコシステム寄附講座
- ・官民協働まちづくり実践寄附講座
- ・道路アセットマネジメント政策（NEXCO 西日本・阪神高速）講座
- ・港湾物流高度化寄附講座
- ・管理会計（日本経営会計専門家協会）寄附講座
- ・パラドキシカル・リーダーシップ産学共同講座
- ・情報学ビジネス実践講座
- ・グリーン・アントレプレナーシップ研究寄附講座
- ・哲学的企業家研究寄附講座
- ・女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム
- ・アート・コミュニケーションデザインと組織経営寄附講座
- ・インテグレイティド・ホスピタリティ（グリーンハウス）寄附講座



新しい街、古い街、歩く街

河野広隆



私は歩くのが好きです。山歩きも街歩きもいいですね。京都市は、歩くのに最高の街です。まず、市街地中心部はそれほど広くない。新しいものと古いものが混在していて楽しい。見るものが極めて豊富で、いつも新しい発見がある。

実は、本格的に歩くようになったのは、2006年に京大に来てからです。それまで住んでいた「つくば市」は、典型的な車の街です。1979年に就職して、つくばに住み始めた頃は、まだ建設中でした。広大な松林を切り開き、住宅と立派な道路をあちこちで造っていました。どこを見ても同じような風景で、何度も道を間違いました。とても街とは言えない状況でした。そこから、いわば街の誕生から成長までを見ていた感じです。当初は、正直、あまり歩くのが楽しい街ではなかったので、自転車に乗りました。郊外へ行くと、古代から中世の遺跡、神社など、そこそこ歴史を感じるものがあるし、田園風景の中の平坦な道を走るのは快適です。「つくば霞ヶ浦りんりんロード」という自転車道も整備されています。それで本格的に自転車を複数台所有して、年間5000km走行を目標にしていました。

一方、京都は自転車には不向きです。人と車・自転車が多すぎます。バスと電車が便利なので、直ぐに「歩き」に転向しました。京都で買った炭素繊維製の自転車はお蔵入りしてしまいましたが、で、年間365万歩を目標に大いに歩きました。

京都の中心部の道のほとんどは歩いたと思います。観光客の少ない住宅街も、人々の営みが垣間見えて面白いです。人気のない朝の先斗町や、店が閉まった後も多くの旅行者がぶらつく新京極通などは、普段とは別の一面があります。少し足を延ばして、京都市周辺の丘をめぐる「京都一周トレイル」も魅力的です。自然豊かで鹿や猿までいます。まだ完歩はしてませんが。

出張で訪れた日本の都市や海外の都市も、時間を見つけて歩くようにしています。当たり前のことですが、日本国内でも、都市によって随分と雰囲気異なります。そして、この違いが楽しい。海外で、観光地より面白いと思うのは、地元朝市です。朝市があるところは、活気があり、商品の多様さ、売り方の多様さには驚かされます。夜明けとともに起きて、歩いて、見て、腹を空かせて食べる朝食は最高です。

さて、話題を戻して、京都とつくばという全く異なる街に住めたことは、貴重な体験でした。つくばの街が今後どうなるか、とても興味があります。20年前に東京と結ぶ鉄道の開通で激変しました。東京のベッドタウン化した面があります。既に当初の中心部は移動してしまっています。京都の街は、50年後をなんとなく想像できますが、つくばの街は全く想像できません。私が生まれ育った九州の地方工業都市は、大正・昭和初期に大発展し、昭和後期に廃れてしまった街です。半世紀と少しで激動の変化をした例です。つくばが研究学園都市としての発展を継続し、京都のように今後も独自の歴史を刻み続ける街になるのか。残念ながら50年後のつくばは私を見ることはできません。見てみたいですね。もちろん、100年後のGSMも見てみたい。1000年後の京都の街も。



芳井 理江さん

観光経営科学コース
2023 年度修了生

在学中、印象に残った出来事

一番のインパクトは何をおいても GSM の集大成でもあるワークショップレポートの最終発表で最優秀賞を受賞したことです。「それでも旅館に女将は必要か — ‘メディアに創られた女将像’ からの脱却と新たなアイデンティティ—」という業界においてはなかなか扇情的な研究タイトルですが、指導教官の前川佳一先生の丁寧なご指導はもちろんのこと、山内裕先生や佐藤那央先生のアドバイスも頂き上げることが出来ました。実践的な含意は学術的な視点を組み込めたからこそ見出すことができ、研究を通して旅館のみならず観光業界の視野も大きく広げることが出来ました。

授業以外に取り組んだこと

若林直樹先生に声をかけて頂き「京都観光振興計画 2025 マネジメント会議」の京都市民公募委員に応募して会議に出席しました。京都以外のことはなにも知らない私が、GSM で培った体系的な理論をベースにいち市民として京都市の観光に対して意見を述べる機会を頂きました。また、以前から年に何度か各大学等にお招きいただき旅館業の視点から観光やホスピタリティ産業についての講義をしていました。これまでは実践に重点を置いていた講義をしていましたが、GSM での授業や自身で学んできた理論で裏付けていくことで深い考察もとに俯瞰的な視点で講義をすることが出来るようになりました。

在学中、印象に残った出来事

京都大学、コーネル大学どちらの生活も大変刺激的で実りある経験でした。コーネル大学での日々は常に忙しかった印象があります。本来1年半のプログラムを1年で修了するというので、多く単位を取る必要がありました。そのため、渡米直後は、毎週授業ごとに出される課題と授業の予習復習で精一杯でした。慣れてきた頃に就職活動が始まり、就職活動が終わった頃にビジネスプランコンテストの準備が始まり、常に何らかのイベントに追われていた気がしますが、今思い返せば、貴重な経験の連続でありとても充実した日々でした。京都大学での生活で最も印象に残っているのは、ワークショップでの取り組みです。私は京都の宿泊施設でのインターンシップで経験した内容を踏まえて、「日本のラグジュアリーホテルのインバウンド観光客への対応の課題と解決策」というテーマで論文を書きました。その際の最終プレゼンで、人生で初めて緊張せず自分の思っていることを淀みなく発表することができました。それは、2年間様々な経験を積み、新しいことに挑戦することや失敗することを前向きに捉えられるようになったからだと思います。知識はもちろん、尊敬するクラスメイトとの出会いや新たな価値観を提供してくれたこのプログラムには感謝しかありません。



川村 結衣さん

京都大学—コーネル大学国際連携コース (KC-CDO)
2023 年度修了生

GSM で学んだこと

経営戦略やマーケティング、ファイナンス等の基礎科目はもちろん、専門科目や実務科目、発展科目と段階を経て履修することで、マネジメントに関する理論を体系的かつ効率的に学ぶことができたと思います。また、理論だけではなく、授業内外で行われたディスカッションやグループワークを通じて意見交換することで、多くの気づきを得ることができました。特に、自分の専門とは全く異なる分野、例えばファイナンスや観光経営の講義を受講することで、考え方や文化の違いを感じることができ、とても良い刺激になりました。これらは組織の一員として働く中では得難いものであり、2年間学生として勉学に専念した意義があったと感じます。

在学中、印象に残った出来事

WS 活動全般になります。WS は、自らが設定した課題に対して1年を通じて調査・研究活動を行うものですが、私が専攻したプロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラムでは、指導教員と学生が1対1となる場合が多いです。他のプログラムでは教員1名に対して4~6人となるのに対し、自分が興味のある分野の専門家と1対1で1年間議論できるという点は、非常に贅沢なことだと感じました。また、そのおかげでより深く課題に対して追究できたと思います。指導教官である大庭哲治先生には、研究指導のみならず博士課程への進学相談等、多方面でご助力頂き大変感謝しています。



岸本 樹さん

プロジェクト・オペレーションズマネジメントプログラム
2023 年度修了生
GSM 博士後期課程に進学



彭昌錦さん

ビジネス・リーダーシッププログラム
2024年度修了生

在学中、印象に残った出来事

特に印象深かったのは2年目のワークショップです。特に、M2の後半に論文を書いていた時期には、ドイツでの交換留学も経験しました。この期間中は、交換校での授業だけでなく、論文の執筆と就職活動を並行して進める必要があり、多忙と時差の影響で非常に疲れました。しかし、LIU先生は私が直面していた学術課題に対して示唆に富んだアドバイスを提供するだけでなく、人生課題と意思決定に対しても、まるで友人のように温かい励ましとガイダンスを提供してくれました。最後に、自身の関心のあるテーマの研究はプログラム内での優秀賞を受賞し、さらには望んでいた企業からの内定を獲得することができました。これらの成果は、大きに自信になり、挑戦に対する恐れを乗り越える勇気を与えてくれました。

授業以外に取り組んだこと

京大での生活中、京都や滋賀、大阪、神戸周辺の山々を多数登りました。六甲山の縦走で神戸から大阪まで歩き、M1の夏休みには富士山の頂上に登り、日の出を見たことがあります。そして、趣味を広げ、室内クライミング（ボルダリング）を始めることになりました。次に、ドイツでの交換留学中、14ヶ国30以上の都市を訪問しました。ヨーロッパの異なる地域で、人々の異なる性格や考え方を感じ取ることができ、多様な生き方があることを知りました。この経験は、私の視野を大きく広げてくれました。

在学中、印象に残った出来事

入学当初、実務経験がない私は、講義内でどのように議論に貢献できるか悩んでいました。そのような中、「経営戦略」という基礎科目の講義で、学生のこれまでの実務経験等での知見のシェアリングを目的としたプレゼン発表者の募集が行われました。学生フォーミュラ日本大会という産学協同プロジェクトに参画していた実体験から、その魅力と難しさについてシェアリングする良い機会であると感じ、このプレゼン発表者のひとりとして登壇しました。発表後、多くの人々から声をかけられるようになり、その結果、講義での議論などに積極的に参加できるようになりました。同様に様々なテーマで自分も経験を発表した同期も多く、そのプレゼンと先生の講義が組み合わせることで、非常に充実した学びの時間を過ごせたことを今でも鮮明に覚えています。

GSMでの2年を振り返ってみれば、刺激的な環境で学生生活を送ることができた感謝でいっぱいです。従事する業界で感じた問題意識や自分のキャリアパスにおいて達成したい目的を持った方々に囲まれる中で、自分のキャリアプランについて熟考して進路を選択できたことは、何物にも代えがたい経験です。同時に、指導教官である砂川先生をはじめ、GSMの先生方の丁寧な指導により実りある学びを得ることができました。



大門将也さん

ファイナンス・会計プログラム
2023年度修了生



Maria Victoria Tinioさん

i-BA国際プログラム
2023年度修了生

GSMで学んだこと

Prior to GSM, I already had a business background from my bachelor's degree and work history. However, the classes I took not only helped refresh this knowledge, they also introduced new ways of thinking and working. For example, I took strategic management and consumer culture classes because they were new topics to me, but both lectures' balanced combination of theory and practice (specifically, via case studies and groupwork) helped me find connections to my past experiences, and thus sparked a newfound appreciation for these fields.

授業以外に取り組んだこと

Between regular classes and studying for JLPT N1, I experienced working as a part-time English teacher, a tutor to five international students, a teaching assistant for Women's Leadership class, and a research assistant. I participated in two art exhibits in Sendai using local washi paper, and was even featured on a local news program.

I have also worked as an interpreter at events, the consulate, and at city hall, which somehow got me involved in the brand creation of an NPO/business incubator for female entrepreneurs in Kyoto. Such opportunities to use my skills to contribute to society, while sometimes unexpected, felt truly worthwhile.

2023 年度 ベストティーチャー賞および優秀教育賞が選出されました

経営管理大学院では、その年度に最も質の高い授業を提供した教員を表彰するため、2009 年度より「京都大学経営管理大学院ベストティーチャー賞」制度を設けております。同様に、2019 年度より非常勤教員には「優秀教育賞」を授与しております。

第 15 回目となる 2023 年度ベストティーチャー賞に牧野成史 教授（経済学研究科）と蓮行 特定准教授、優秀教育賞に松本茂 特命教授と加藤政仁 客員准教授が選ばれました。



ベストティーチャー賞

牧野成史 教授（左）

澤邊紀生 経営管理大学院長（右）



優秀教育賞

加藤政仁 客員准教授



ベストティーチャー賞 蓮行 特定准教授（左）



優秀教育賞 松本茂 特命教授（左）

在京都フランス総領事サンドリン・ムシェ氏と意見交換を行いました

2024 年 9 月 17 日、澤邊紀生 院長とアスリ チョルパン 教授が在京都フランス総領事館を訪問し、総領事のサンドリン・ムシェ氏と意見交換を行いました。

今回の訪問では、経営管理大学院がフランスの 4 大学と締結している国際交流協定をさらに発展させるため、総領事を交えた連携強化の取り組みについて活発な意見交換が行われました。

さらに昨年度より本大学院で実施している「女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム」においてもジェンダーギャップ解消に向けたフランスの先進的な取り組みを取り入れ、さらなる交流を図ることが話し合われました。フランスはジェンダー平等の分野で世界をリードする国の一つであり、同プログラムにおいてその知見を活かすことで、多様性とインクルージョンを推進するリーダーの育成を目指していきたいと考えています。



サンドリン・ムシェ氏（中央）

澤邊 紀生 院長（右）

アスリ チョルパン 教授（左）

女性エグゼクティブ・リーダー育成プログラム

<https://www.wel.gsm.kyoto-u.ac.jp/>

京都大学経営管理大学院 2023 年度 修了記念春季イベント実施報告 “GSM DAY 2024 International Networking Event for all GSM People”

経営管理大学院同窓会は、2024 年 3 月 24 日（日）、2023 年度修了記念春季イベント GSM DAY 2024 を開催し、145 名の修了生、在校生、入学予定者、教職員の皆様にご参加いただきました。このうち海外からの参加者は 43 名でした。GSM DAY は、GSM をめでたく修了される皆様をお祝いし、またこの機に留学生を交えた新入生・在校生・修了生・教職員のネットワークの一層の充実をはかるためのイベントです。当日は、澤邊紀生 院長やアスリ チョルパン 先生からはなむけの言葉、村井暁子 先生の講演、優秀学生の答辞、退職教員への花束贈呈、観世能「高砂」の実演や修了生による呈茶など盛りだくさんの内容で、大変な賑わいとなりました。また関連イベントとしてこれに先立ち、2023 年度で退職される前川佳一 先生、村上啓二 先生、嶋田敏 先生による講演会も開催し、こちらも多数の聴講生が参加しました。

卒業祝福スピーチ

アスリ チョルパン 先生



2023 年度 優秀学生スピーチ

Aya Samy さん
i-PM 国際プログラム修了生



2024 年度 修了記念イベント

GSM DAY 2025 (春季同窓会ネットワーキングイベント)

日程：2025 年 3 月 23 日（日）

会場：京都大学時計台記念会館 国際交流ホール

詳細は同窓会会員あてメールにてお知らせします。

京都大学経営管理大学院同窓会からのお知らせ

会員へのお知らせはメールでおこなっています。最新のアドレスは会員情報データベース「シクミネット」でご自身でご確認いただくか GSM 同窓会事務局までご連絡ください。

GSMalumni@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

観世流能披露「高砂」 杉浦豊彦 能楽師と杉浦能楽会のご公演



同窓会会長の挨拶

YANG DANNI さん

観光経営科学コース
2022 年度 修了生

今期の同窓会会長を務めさせていただくことになりました YANG DANNI (ヤン・タンジ) です。初めての外国人会長として、この大役を引き受けることを大変光栄に思っています。

私は中国・重慶出身で、2002 年に来日し、22 年間日本で暮らしています。京都大学経営管理大学院では観光経営科学コースを専攻し、2023 年に 16 期生として修了しました。卒業後は、鳥取にあるアイエム電子株式会社の取締役として経営戦略を担当し、さらに株式会社アクセラレータージャパンの取締役社長として宿泊施設の運営やホテルマーケティングのコンサルティングを行っています。また、大阪の学童スクール「GAKu&Do!」の顧問としても学童運営をサポートしています。

私たちの同窓会は、多様なバックグラウンドを持つ素晴らしいネットワークです。このネットワークを活かし、外国人としての視点を取り入れ、新しい価値とつながりを創出していきたいと考えています。

ここからは、私が会長として取り組む施策についてご紹介します。

① 同窓生の参加数向上と国際ネットワークの拡大

同窓会を活性化するため、まず同窓生の参加数の向上に取り組みます。在校生を特別メンバーとして巻き込み、卒業後も継続して参加できる仕組みを整え、キャリア支援や起業支援のイベントを定期的に開催します。また、東京や名古屋などで地域イベントを行い、地域ごとの参加を促進していきます。さらに、国際ネットワークの拡大にも力を注ぎます。留学生や海外で活躍する同窓生が参加しやすい場を提供し、オンラインイベントや国際交流プログラムを強化して、国内外問わず多様な同窓生が参加できる環境を整えていきます。

② 持続可能な財政基盤の構築

持続可能な財政基盤を確立するため、寄附金募集や企業スポンサーシップを積極的に活用し、企業宣伝やイベントを通じた広告収入を増やします。財務基盤の強化によって、同窓会の活動をより充実させることを目指します。

③ 先生方が同窓会活動に参加いただける仕組み作り

希望する現役の先生方および退職された先生方が参加いただける仕組みを整え、同窓会活動への参加を促進します。先生方の知識や経験を同窓生に還元する場を提供し、講演会や交流の機会を設けます。また、先生方のネットワークを活用し、同窓会と外部機関との連携を強化します。さらに、先生方からのフィードバックを基に活動を改善し、質の高い取り組みを進めてまいります。

最後に、理事メンバーとともに、同窓会が同窓生にとって価値あるネットワークを提供し続け、持続可能な発展を遂げられるよう全力を尽くしてまいります。皆様のお力添えを賜りながら、より実りある同窓会活動を実現してまいります。どうぞよろしくお願いたします。

GSM Newsletter vol.9

〈発行〉

2024年11月

京都大学経営管理大学院

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

URL : <https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp>

